

現代から過去へ「郷土博物館」

新川流域の自然と人々の生活の変遷を学ぶ

新川流域の自然と多くの人の暮らしを、考古、歴史、民俗、自然、産業などから広く学べる郷土博物館。貴重な資料を展示するだけでなく、街全体を展示室と捉えて、街の中へ出て体験する学習会も行っています。大人も子どもも、気軽に立ち寄れる学習の場所です。お問い合わせは郷土博物館 484-9011へ。

現代から過去へタイムスリップ 新川流域の自然と人々の生活

首都圏のベッドタウンとして発展してきた八千代市。私たちが生まれるよりもずっと前、遠い昔はどんなところだったのでしょうか。そのヒントは郷土博物館で見つかります。

常設展示では、新川流域の自然と多くの人のかかわりの変遷を中心に、考古、歴史、民俗、自然、産業などの資料を現代から過去へとさかのぼる「倒叙法」で展示しています。

土器や石器などの出土品のほか、農機具や生活家電、獅子舞などの伝統文化なども紹介。現代からタイムスリップして、街の生活が変わっていく様子などを学び理解することができます。

このほかにも生活と道具の変化、鉄道の開通と街の変容など、さまざまな角度から本市を捉えた企画展も行っています。

博物館の外へ飛び出そう 街は大きな展示室

私たちの周りには、里山やそこに住む動植物、歴史を伝える文化財など、至るところに生きた教材があり、まるで大きな展示室です。

郷土博物館を拠点に、野外に出て実際に見て、触れて、体験する学習会やフィールドワークを行っています。

里山を歩いて、その成り立ちや植生の特徴などを調べたり、植物標本を作ったり、文化財や、



文化財の説明を受けて
間近で見学します

郷土の歴史・文化を探訪するなど、外へ飛び出して間近で学びます。

親子で気軽に立ち寄れる 身近な博物館です

博物館は、学習の場としてだけでなく、観光や国際交流、憩いの場の提供など、さまざまな役割を担っています。

堅苦しい場所と思う人もいるかもしれませんが、子どもにも分かりやすく学べるように、体験講座も数多く実施しています。昔の方法で火をおこしたり、勾玉や縄文土器を作ったりして古代人の生活を体験することもできます。竹細工の講座では、ボランティアの人たちが竹を使っ



先生から竹笛づくりを
教わりました

た昔懐かしいおもちゃ作りを教えています。昨年度は、十二単などを試着する伝統装束講座や篆刻講座など、14件開催しました。

いつでも自由に遊べるように、竹ポックリや竹とんぼ、けん玉、メンコなどが置いてあるので、子ども連れでも気軽に立ち寄れます。

八千代が誇る墨書土器

郷土博物館の近くで採取した「地層はぎ取り断面」や市内で出土した遺物など、市の移り変わりについて伝える貴重な資料が展示されています。萱田地区のゆりのき台が開発されたときには、旧石器時代の遺跡が多く見つかリ、萱田、権現後、ヲサル山など6遺跡から成る萱田遺跡群で1万5,000点以上の遺物が発見されました。

日本では最古の磨製石器で、旧石器時代の房総半島では2万8,000年前後の時代だけに見られる、局部磨製石斧も市内から完全な形で7点出土しています。市内には、このほかにも多くの遺跡が発見されています。郷土博物館の周辺には、奈良・平安時代の村上遺跡群があり、昭和48年の調査は、当時としては貴重な遺跡全体の発掘例で、佐倉市の国立歴史民俗博物館にその模型が展示されているほどです。



▲市内で出土した局部磨製石斧 千葉県は全国的に



市指定文化財の墨書土器12点

も奈良・平安時代の墨書土器といわれる墨で文字や記号、絵などを書いた土器の出土量が多い地域です。その中でも本市は特に出土量が多く、保品にある上谷遺跡をはじめ、約3,900点見つかり、12点は市指定文化財になっています。この中には、地名・人名・紀年銘・人面などと一緒「召代進上」などの文字が確認できるものも。このことから延命を祈りお供えをするような、祭祀に関わる墨書土器群だと考えられています。

表面をヘラのような細い工具で引っかき、人の顔を描いた珍しい人面刻書土器も出土しています。

広告

広告